

紙を乞せ給ひ、御筆を染られて、

紅葉は入相の鐘にいろぞそふ此山寺の秋の夕ぐれ、其後林丘寺宮へ、法皇御直に、普明院宮大切の御年なれば、随分々々御孝行あるべきよし仰らる、さて御立の時、普明院宮は疊二帖ばかり御送り、御名残はいつまでもと御申ありて、御たがひに御涙ぐませ給ふ、法皇は御輿にめさるれば、宮は御部やにいらせたまふ、